

国語教科書と能楽（続）

Sato, Kazumichi / 佐藤, 和道

(出版者 / Publisher)

法政大学能楽研究所 / The Nogami Memorial Noh Theatre Research Institute
of Hosei University

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

能楽研究 / 能楽研究

(巻 / Volume)

41

(開始ページ / Start Page)

55

(終了ページ / End Page)

90

(発行年 / Year)

2017-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00013767>

国語教科書と能楽(続)

佐藤 和道

はじめに

拙稿「国語教科書と能楽」(『能と狂言』一四号、平成二八)では、明治から昭和戦前期に至る能楽と学校教育、教科書について論じた。本稿では引き続き、戦中及び戦後の動向について考察を進める。

一、国定教科書から暫定教科書へ

昭和十二年三月、国体観念の明徴と教学刷新の趣旨に沿うものとして「中学校教授要目改正」(文部省訓令第九号)が公布された。同改正において国語漢文科は「我が国民性ノ特質ト国民文化ノ由来トヲ明ニスルコトニ注意シ国民精神ノ涵養ニ資スルコトヲ要ス」「国民性ノ具現タルコト及国語ノ教養ガ国民ノ自覚ヲ促シ品位ヲ高ムル所以ナルコトヲ会得セシメテ国語愛護ノ念ヲ培フト共ニ美的・道德的情操ヲ陶冶スベシ」(国立国会図書館デジタルコレクシヨン「官報」)と規定された。さらに昭和十八年一月の「中等学校令」(勅令第三十六号)と同年三月の「中学校教科教授及修練指導要目」(文部省訓令第二号)において、国語漢文科は「国民科」へと統合される。

教授要旨

国民科国語ハ正確ナル国語ノ理會^ト発表トノ能力ヲ養フト共ニ古典トシテノ国文及漢文ヲ習得セシメ国民的思考感動ヲ通ジテ国民精神ヲ涵養シ我ガ国文化ノ創造發展ニ培フモノトス(以下略)

教授方針

一 国語ガ国民的思考感動ノ具現ニシテ且之ヲ形成スルモノナル所以ヲ明ニシ国語ノ正確ナル理會・発表ノ能力ヲ養ヒ国語尊重ノ精神ヲ涵養スベシ

一 古典トシテノ国文ヲ通ジテ皇國ノ伝統ト其ノ表現トヲ會得セシメ国民生活ノ發展ト皇國文化ノ創造トニ培フベシ(以下略)

教授事項

一 講読ハ皇國ノ道ノ具現タル各時代ノ国文ト皇國ノ發展ニ寄与セル漢文トノ中ヨリ醇正ナルモノヲ選ビ之ガ正確ナル読誦ト解釈トヲ課シ教材ニ依リテハ暗誦・書取ヲ課スベシ(以下略)

(「中学校教科教授及修練指導要目」)

右改正では特に古典重視の方針が示されたが、これは教科書の編纂にも反映された。すでに昭和十六年度より教科書は各教科五種に限定すること(五種選定)⁽²⁾が定められていたが、十八年の改正中学校令によって教科書は文部省作成の一種に限ることが示された(教科書国定化)。これを受けて作成されたのが『中等国文』(一〜五)及び『国文六』である。以下に吉田裕久によって紹介された同書の編纂趣意書を掲げる。

中等国文は、「皇國ノ道ノ具現タル各時代ノ国文」を、中等漢文は「皇國ノ發展ニ寄与セル漢文」を、学年に從ひ学習者の心身發達の程度に應じて採択排列し、文法・作文・話方と相俟つて、「国語ノ正確ナル理會・発表

「ノ能力」を養ひ、国語が「国民的思考感動ノ具現ニシテ且コレヲ形成スルモノ」である所以を明らかにして、皇國の伝統並びに東亜の思想・文化とその表現とを会得させ、以つて「国民生活ノ發展」と「皇國文化ノ創造」とに培はうとした。かくの如き任務を遂行し達成するために、教材採択の基準は二つの方向を採つた。一つは、「古典へ」の方向、一つは「古典から」の方向である。更にいへば、中学校に於いて課し得べき古典には、程度の上からいつても、量の上からいつても、限度があるから、その古典を讀破し會得する準備的教材と、さういふ古典の歴史的意義及び現代的意義を示すべき發展的教材とを加へて、古典を學習させる課程とした。この二つの方向を存立させることによつて、古典と學習者とを関連づけ、教材としての古典の位置と意義とを確立しようとした。(中略)

尚、教授の方法は、正確なる読誦を重んじ、反復熟読によつて理會の根基に培ふことが肝要である。語句の註解、全文の解釈の如き、簡にして要を得るを旨とし、「読書百編義自見」底の指導を念とし、読誦も十分できないのに、徒らに解釈に走り、批評に深入りする如き、輕薄なる指導に陥つてはならない。教材によつては暗誦を課し、理會としての読誦から、表現としての朗読に達せしめ、以つて古典朗読の歎びを体感させることが必要である。

(吉田裕久『中等国文』(1943)の研究―編纂理念と指導法を中心に―、傍線私注、以下同じ)

<p>【国定教科書男子用】</p> <p>中等国文一 昭18・12</p> <p>1 富士の高嶺(万葉集)↓</p> <p>6 戦国の武士(常山紀談)</p> <p>9 武士氣質(濠翰譜)</p>	<p>【国定教科書女子用】</p> <p>中等国文一 昭18・12</p> <p>1 富士の高嶺↓</p> <p>5 戦国の女性(常山紀談)</p> <p>7 五月の空(十訓抄)</p>	<p>【暫定教科書男子用】</p> <p>中等国語一 国文篇</p> <p>前 昭21・3</p> <p>↓ 1 富士の高嶺(万葉集)</p> <p>↓ 2 親心(雲津雜志)</p>	<p>【新制中学用】</p> <p>中等国語一 昭22・2</p> <p>1 10 末広がり(狂言)</p> <p>2</p>
--	---	---	---

<p>10 親心(雲萍雜志) ↓ 11 朝のころ(橘曙覽)</p> <p>中等国文二 昭19・8</p> <p>1 わたつみ(万葉集) 3 一門の花(平家物語) ↓ 4 すすきの穂(良寛・大隈言道他) ↓ 6 大君のへに(太平記) 8 土風(駿台雜話) 10 創始者の苦心(蘭学事始) ↓</p> <p>中等国文三 昭18・12</p> <p>1 字智の大野(万葉集) 2 草薙の太刀(古事記) 4 源家のほまれ(平家物語) 5 浮島が原(義経記) 6 磯もどろに(源実朝) 7 大塔宮(太平記) 8 文武の道(神皇正統記)</p> <p>中等国文四 昭19・9</p> <p>1 軈の音(万葉集) ↓ 2 大國主神(古事記) ↓ 3 人臣の道(神皇正統記) 4 菊池一族(太平記) 5 月天心(与謝蕪村) ↓ 9 松陰と家庭(吉田松陰) 10 高名の木のほり(徒然草) ↓</p> <p>中等国文五 昭20・1</p> <p>1 若菜(古今和歌集) ↓</p>	<p>9 父の仇(太平記・吉野拾遺) 12 山里(太田垣蓮月「海女の刈藻」) 13 親心 ↓ 15 旧都の月(平家物語)</p> <p>中等国文二 昭19・8</p> <p>1 豊旗雲(万葉集) 2 大君のへに ↓ 5 一萬と箱王(曾我物語) 10 和歌の四季(佐々木信綱・近世和歌) 11 亡きあと(志士書簡) 13 屋島(平家物語)</p> <p>中等国文三 昭19・1</p> <p>1 軈の音 ↓ 2 大國主神 ↓ 4 浮島が原 5 小袖曾我(謡曲) 8 涼風(松尾芭蕉・小林一茶) ↓ 10 忠度(平家物語) 11 磯もどろに 12 土風 13 左の手(北辺隨筆) ↓</p> <p>中等国文四 昭19・9</p> <p>1 大宮の(万葉集) 2 人臣の道 3 草薙の太刀 4 高名の木のほり ↓ 5 月天心 ↓</p>	<p>後 昭21・8</p> <p>↓ 6 一門の花(平家物語) ↓ ↓ 8 すすきの穂(良寛・大隈言道・橘曙覽) ↓ 10 創始者の苦心(蘭学事始) ↓</p> <p>中等国語二 国文篇 前 昭21・3</p> <p>↓ 1 豊の年(万葉集) ↓ 2 大國主神(古事記) ↓ 5 高名の木のほり(徒然草) ↓ 6 月天心(与謝蕪村) 後 昭21・8</p> <p>10 学びの道(玉勝間)</p> <p>中等国語三 国文篇 前 昭21・3</p> <p>↓ 1 若菜(古今和歌集) ↓ ↓ 2 やまとうた(古今集仮名序) ↓ 3 春は曙(枕草子) ↓ ↓ 4 先達(徒然草) ↓ 5 奥の細道(奥の細道) ↓ 後 昭21・8</p> <p>↓ 1 天の香具山(新古今和歌集) ↓ ↓ 2 あづまぢ(更級日記・十六夜日記)</p> <p>国語四 国文篇 昭21・3</p> <p>↓ 1 倭建命(古事記)</p>	<p>↓ 4 創始者の苦心(蘭学事始)</p> <p>中等国語二 昭22・3</p> <p>1 ↓ 6 一門の花(平家物語) 7 舞へ舞へかたつむり(梁塵秘抄)</p> <p>2 ↓ 5 万葉秀歌(扇藤茂吉)</p> <p>3 ↓ 4 鬼にこぶとらるゝこと(宇治拾遺物語) ↓ 7 ひさかたの(古今集)</p> <p>中等国語三 昭22・3</p> <p>1 ↓ 1 天の香久山(新古今和歌集) 9 長歌(万葉集・良寛) 10 羽衣(謡曲)</p> <p>2 ↓ 4 芭蕉の名句(頼原退藏「芭蕉の名句」) 3 ↓ 5 隨筆二題(枕草子・徒然草)</p> <p>【新制高校用】</p> <p>高等国語一 昭22・3</p> <p>上 3 太郎冠者(太郎冠者行状記)</p> <p>高等国語二 昭22・3</p>
---	---	--	--

<p>2 やまとうた(古今集仮名序) ↓ 3 春は曙(枕草子) ↓ 5 恩賜の御衣(大鏡) ↓ 6 光頼卿参内(平治物語) 7 月の前(上田秋成) ↓ 9 天の香具山(新古今和歌集) ↓ 10 敷島の道(増鏡) ↓ 11 吉野の奥(後醍醐天皇ほか) 12 説話三則(古今著聞集・十訓抄・宇治拾遺物語) 13 鞠猿(狂言) ↓ 15 先達(徒然草) ↓ 16 奥の細道(奥の細道) ↓</p> <p>国文 昭20・1 1 撃ちてしまむ(古事記) ↓ 2 たぎつ河内(万葉集) ↓ 4 恩賜の御衣(天鏡) ↓ 5 白良の浜(催馬楽・梁塵秘抄) ↓ 6 橋合戦(平家物語) 7 早蕨(金槐和歌集) 9 法語抄(歎異抄・正法眼蔵随聞記) 10 鉢の木(謡曲) 11 由利の八郎(吾妻鏡) 12 葉隠抄(葉隠) 14 奥の細道(奥の細道) 16 直毘霊(古事記伝) 17 尊きこの身(平賀元義・佐久間東雄)</p>	<p>8 縣居大人(玉勝間) 11 巴の勇戦(源平盛衰記) 中等国文五 昭20・1 1 若菜 ↓ 2 やまとうた ↓ 3 春は曙 5 恩賜の御衣 ↓ 6 あづまち(更級日記) ↓ 8 天の香具山 ↓ 9 月の前 11 敷島の道 ↓ 12 吉野の奥 14 先達 ↓ 15 説話三則 16 鞠猿 17 奥の細道 ↓</p> <p>国文六 昭20・1 1 いでまし(古事記) 2 青垣山(万葉集) 4 正月一日(枕草子) 5 賀宴(源氏物語) ↓ 6 白良の浜 ↓ 7 大原御幸(平家物語) 8 法語抄 10 摂待(謡曲) 11 葉隠抄 12 奥の細道 14 直毘霊 15 尊きこの身 16 松陰と家庭</p>	<p>↓ 2 白珠(万葉集) ↓ ↓ 3 賀宴(源氏物語) ↓ 4 源氏物語論(源氏物語玉の小櫛) ↓ 5 白良の浜(催馬楽・梁塵秘抄) ↓ 7 年来稽古(風姿花伝) ↓</p> <p>【暫定教科書女子用】 中等国語一 国文篇 前 昭21・3 ↓ 1 富士の高嶺 ↓ 2 親心 中等国語二 国文篇 前 昭21・3 ↓ 1 豊の年 ↓ 4 涼風(松尾芭蕉・小林一茶) ↓ 5 左の手(北辺随筆) ↓ 6 高名の木のぼり ↓</p> <p>中等国語三 国文篇 前 昭21・3 ↓ 1 若菜 ↓ ↓ 2 やまとうた ↓ 3 春は曙 ↓ ↓ 5 先達 ↓ 6 奥の細道 ↓</p> <p>国語四 昭21・3 男子用と共通教材</p>
<p>資料① 国定期教科書における古典教材の推移</p> <p>数字は教材番号、↓は教科書間における教材の継承関係を示す。男女共通教材の出典は男子のみ記した。和歌等で出典が複数あるものは作者名を付した。</p>	<p>上 ↓ 2 枕草子抄(春曙抄) ↓ 6 万葉集抄(万葉集) 下 6 源氏物語小萩がもと(源氏物語)</p> <p>高等国語三 昭23・4 上 ↓ 1 奥の細道(奥の細道) ↓ 6 年来稽古(風姿花伝)</p> <p>下 1 自然と人生(松尾芭蕉・三冊子ほか) 4 つきあひは格別(西鶴諸国ぼなし・日本永代蔵) 7 八雲たつ(古事記)</p>	<p>上 ↓ 2 白珠(万葉集) ↓ ↓ 3 賀宴(源氏物語) ↓ 4 源氏物語論(源氏物語玉の小櫛) ↓ 5 白良の浜(催馬楽・梁塵秘抄) ↓ 7 年来稽古(風姿花伝) ↓</p> <p>【暫定教科書女子用】 中等国語一 国文篇 前 昭21・3 ↓ 1 富士の高嶺 ↓ 2 親心 中等国語二 国文篇 前 昭21・3 ↓ 1 豊の年 ↓ 4 涼風(松尾芭蕉・小林一茶) ↓ 5 左の手(北辺随筆) ↓ 6 高名の木のぼり ↓</p> <p>中等国語三 国文篇 前 昭21・3 ↓ 1 若菜 ↓ ↓ 2 やまとうた ↓ 3 春は曙 ↓ ↓ 5 先達 ↓ 6 奥の細道 ↓</p> <p>国語四 昭21・3 男子用と共通教材</p>

吉田⁽⁵⁾によれば『中等国文』は各学年に二冊の割り当てで作製され『国文六』のみが一冊で四年生用であったとされる。資料①に『中等国文』所載の古典教材を一覧にして掲げたが、古典教材がかなりの分量を占めており、その中に⁽⁶⁾謡曲(鉢木・撰待)・狂言(鞞猿)も含まれている。

昭和二十年八月の終戦に伴い、文部省⁽⁷⁾は教科書に記載された軍国主義に関する記述の墨減を指示、「墨塗り教科書」が用いられた。次いで翌昭和二十一年度は暫定的に墨塗り部分を削除した教科書を発行し、二十二年度より新編纂の教科書を作成する方針が示された。この時二十一年度の一年間のみ使用されたのが、『中等国語』(一・二・三)『国語四』の所謂「暫定教科書」である。暫定教科書は編纂に時間的な余裕がなくその教材の多くを国定教科書『中等国文』に負っている。両者の継承関係を資料①に「↓」で示したが、古典作品では軍記物語や近世随筆などが除かれる一方で、中古文学や和歌などはそのまま残された。この時能楽作品が排除されたのは、軍記物語に材を採り、武士の忠義を描く(鉢木)〈撰待〉の内容が問題視されたためであろう。吉田によれば、暫定教科書国文篇において新教材として登場した作品は僅か七作品に過ぎないが、その中で唯一の古典作品が『風姿花伝』「年来稽古」であった。『風姿花伝』は、戦前の教科書では僅かに岩波書店『国語』(昭和九・第十卷第二十課)に「生涯稽古」と題する西尾実の文章が採られたのみである。岩波⁽⁸⁾『国語』は編集主幹であった西尾実が「理想的教科書の出版」を意図して編纂したもので、巻一卷頭に「生きた言葉」、第五巻巻末に「ツェッペリン伯号を迎へて」、最終巻(巻十)巻末に「生涯稽古」という自身の著述三篇を配しその教育思想を表明しているが、中でも「生涯稽古」は「国語教育の一つの到達点」(『国語学習指導の研究』岩波書店、昭和一一)と評されたように西尾の強い思い入れをうかがわせる。実は西尾は、戦前の国定教科書『中等国文』編纂の中核にいた人物であり、同書も岩波『国語』の影響を大きく受けたことが指摘されている。暫定教科書に西尾がどの程度関与していたのかは明らかではないが、『風姿花伝』採録の背景には西尾の影響

を考えるのが穏当だろう。後述の如く戦後教科書において能楽論は教材として一定の地位を占めるに至るが、その萌芽が暫定教科書にあったことに注意しておきたい。

さらに昭和二十二年からは、新制中学校用に新たに作成された国定教科書『中等国語』『高等国語』の発行が開始される。『中等国語』は学年ごとに三分冊(中学二年・三年は漢文篇を付して四分冊)、『高等国語』は各学年二冊ずつ発行された。吉田によれば、戦前の『中等国文』及び暫定教科書から継続して採用された教材は一割程に過ぎず、大半が新規に採用された教材だという。その一方で『中等国語』所載教材のうち後継の検定教科書に採用されたものは六割にも上る。つまり戦前からの教材の流れを断ち切り、新たに戦後教科書のモデルを作ったという点で本書の意義は大きいといえる。能楽関連教材について言えば『中等国語』には〈羽衣〉(末広がり)が、『高等国語』に『風姿花伝』が採られており、古文ではないが『高等国語』には野上豊一郎の『太郎冠者行状記』の一節も載る。暫定教科書においていったん取り下げられた能・狂言が題材を変えて復活し、加えて『風姿花伝』が継続して採用されたことで、能・狂言・能楽論の三者が教科書において初めて完備された。昭和三十年代半ばまではこの形式が踏襲されていく。

一方、⁽⁸⁾小学校向けの国定教科書(第六期『国語』第五学年上)には、「ぶす 能ときょうげんについて」が掲載された。本教材は能・狂言の解説と現代語訳(附子)によって構成されるが、(附子)は冒頭部を以下のように改変している。

ある村に、けちんぼのだんながありました。おかみさんをもらえば、くらしにもお金がかかり、着物をさせたり、おこづかいをやったりしなければならぬので、ずっと、ひとりであらうしていました。

また、解説部分にも

きょうげんには、よく、太郎かじゃと次郎かじゃが、現れます。かれらは、だんなのねこかぶりをあばいたり、

いたずらをしたり、また、とんでもないへまをやったり、だまされたりなど、よわい人間のしそうなことをなんでもやります。めうえのいばつたものに対してもおそれず、そうかといって、なにをしてもにくまれない、おもしろい人物になっています。

海後宗臣、仲新編『日本教科書大系近代編』第九卷(講談社、昭和三八)

との記述が見える。これらの記述は教科書の刊行と同時期に告示された『昭和二十二年度学習指導要領(試案)』(小・中学校対象、以下「二十二年度試案」)が教材の要件に掲げた「(十一) 自由・平等・博愛・平和・正義・寛容の思想の理解と発達を助けるもの。(十二) 真・善・美に対する理解を与えるもの。(十三) 信仰心をやしなひ、ぎせい・責任の精神生活を表わした物語。」(国立教育政策研究所「学習指導要領データベースインデックス」)に沿うべく書き加えられたものである。このように教科書の編纂には文部省(現文科省)がおよそ十年おきに改訂する学習指導要領が強い影響を及ぼしている。次節では高等学校の学習指導要領の変遷をたどりつつ、教科書における能・狂言の扱いを考察する。

二、『昭和二十六年度学習指導要領試案』と能・狂言

学習指導要領はCIE(民間情報教育局)の指導によりアメリカの“Course of Study”を参考に作製され、当初は「試案」として法的拘束力を持たない手引きとして扱われた。昭和二十二年三月に告示された「二十二年度試案」は国語科学習指導の目標を「児童・生徒に対して、聞くこと、話すこと、読むこと、つづることによって、あらゆる環境におけることばのつかいかたに熟達させるような経験を与えることである。」と規定している。さらに「児童・生徒の言語活動」として

- (一) 童謡・童詩・叙情詩・叙事詩・和歌・俳句など。
- (二) 手紙・日記・記録・報告・研究・随筆など。
- (三) 童話・ぐう話・伝説・伝記・小説など。
- (四) 脚本・ラジオ台本・シナリオ・よびかけ・詩劇・謠曲・狂言など。
- の四種を例示し、それぞれ「(一) 詩情表現のむれ。(二) 思索・記録のむれ。(三) 物語のむれ。(四) 演劇一般のむれ。」と名付けている。ここにはすでに経験主義に基づく単元学習が標榜されているが、その中で能(謡曲)や狂言は演劇の中に位置づけられている。
- さらに高等学校を対象した最初の

資料② 高等学校学習指導要領の変遷			
※数字は単位数、●は必修科目・○は選択必修科目・[]は選択科目 教科書発行の期間の別は阿武泉の定義による。なお阿武は第6期までしか扱っていないが、便宜上第7期・第8期を加えた。			
第1期	昭和22 23年実施	4月：新制高等学校の教科課程に関する件(23年改正・24年一部改正)	国語(甲)⑨・国語(乙) [2~6]・漢文 [2~6]
第2期	昭和26 26年実施	7月：学習指導要領(試案)(27年補訂)	国語(甲)⑨・国語(乙) [2~6]・漢文 [2~6]
	昭和30 31年実施	12月：学習指導要領改訂(33年再訂)	国語(甲)⑨・国語(乙) [2~6]・漢文 [2~6]
第3期	昭和35 38年実施	10月：学習指導要領改訂：教育課程の基準としての性格の明確化(基礎学力の充実・系統的学習の重視)	現代国語⑦・古典甲②・古典乙Ⅰ⑤・古典乙Ⅱ [3] ※現代文と古典の分冊化
第4期	昭和45 48年実施	10月：学習指導要領改訂：教育内容の一層の向上、教育内容の現代化	現代国語⑦・古典Ⅰ甲②・古典Ⅰ乙 [5]・古典Ⅱ [3] ※古典必修化
第5期	昭和53 57年実施	8月：学習指導要領改訂：ゆとりある充実した学校生活の実現、学習負担の適正化	国語Ⅰ④・国語Ⅱ [4]・国語表現 [2]・現代文 [3]・古典 [4] ※単位数減少
第6期	平成元 6年実施	3月：学習指導要領改訂 社会の変化に対応できる心豊かな人間の育成	国語Ⅰ④・国語Ⅱ [4]・国語表現 [2]・現代文 [4]・現代語 [2]・古典Ⅰ [3]・古典Ⅱ [3] 古典講読 [2]
第7期	平成11 15年実施	3月：学習指導要領改訂 基礎・基本を身に着け「生きる力」を育成する	国語総合④・国語表現Ⅰ②・国語表現Ⅱ [2]・現代文 [4]・古典 [4]・古典講読 [2]
第8期	平成21 25年実施	3月：学習指導要領改訂 「思考力・判断力・表現力」の育成	国語総合④・国語表現 [3]・現代文A [2]・現代文B [4]・古典A [2]・古典B [4]

指導要領である昭和二十六年年度の『学習指導要領試案』（以下「二十六年度試案」）では、経験主義がさらに徹底され、多様な言語活動による授業展開が提示されている。本書は「高等学校の国語科の単元の例」に一章を割り、第一学年の例として「古典はわれわれの生活とどんなつながりがあるか」を掲げている（資料③）。ここでは、単元設定の理由に「古典の持つ価値を現代に生かす」ことを挙げ、クラスやグループを単位にした討議（パネルディスカッション・フォーラムディスカッション）や、図書館や博物館、ラジオ放送や映画などを用いた調査研究、手紙・エッセイ・批評の執筆や、演劇・シナリオの作成など三十をこえる学習活動の例が示されている。この指導要領の記載を受けて、教科書は多様な活動を支える豊富な教材を収録し、単元学習を念頭においた構成を取っている。例えば、垣内松三編『高等新国語 三上』（光村図書、昭和二八）は「単元四 歌謡と演劇」に「（一）一つ松（記紀歌謡、『梁塵秘抄』、北原白秋作の歌謡十篇を収録したもの）（二）歌謡史について（藤田徳太郎）（三）羽衣（世阿弥元清）（四）鷹の井戸（ウイリアム・バトライ・エーツ。松村みね子其他共同訳）」の四篇を掲げる。このうち『羽衣』『鷹の井戸』については

（三）は、謡曲中、きわめて名高いものの一つ、羽衣の原文で、その形式や文学表現などを調べる資料にした。

（四）は、日本の謡曲に影響を受けた外国の演劇の一例を掲げたので、この一例を見ても、歌謡と演劇のつながりが理解される。

と記し、学習活動として「一般の演劇と能と比較し、その特色を理解する。」「能と似通っているところは、どこか。歌舞伎と能との似通っているところは、どこか。一般演劇と能と違っているところは、どこか。」等を挙げる。また「内省」という項目に生徒同士のディスカッションの様子を例示する。

D 「『羽衣』の能が見たいと思います。どんなに美しく、どんなに整えられた世界かと思います。物語の筋は、きわめて単純で、わたしたちには、あまり興味ありませんが、あの話を、いかに動きとして結晶させるか、い

資料③ 「古典はわれわれの生活とどんなつながりがあるか」(抄出)

(一) 単元設定の理由

古典は古くしてしかも新しい。古典にはわれわれの祖先のさまざまな生活がくりひろげられている。古典を読み味わうことによって、われわれは祖先がどのように感じ、考え、生活をしていたかを理解し、やがてわたくしたちの生活を豊かなより高い深いものにしていくことができる。古典の読み方を学習して、古典に親しみを持ち、われわれの生活とどんなつながりがあるかを考え、古典の持つ価値を現代に生かすように心がけることは、人間形成の上に必要なことである。

(二) 目標

- 1 古典と自分たちの生活とのつながりについて学ぶ。
- 2 古典をとおして過去の時代と過去の人々の生活を理解する。
- 6 われわれの生活にも役にたついろいろな性格や行為、たとえば、正直・勇気・親切・ユーモア・公平・思いやりなどの例を古典の中に見つけだし、それについて反省したり、討議したりする。
- 13 ラジオ台本や劇にしくむことによって、自己を発表する能力を高める。
- 15 クラスでの討議、小さいグループでの討議、パネル・ディスカッション・フォーラム・ディスカッション、会見や朗読に、効果的に参加する能力を高める。
- 17 自分の意見や思想や感情を手紙・論文・ラジオ台本・劇や対話などに表現する能力を高める。

(三) 内容

3 次のような事から基いて、研究したり、討議したり、話し合ったり、報告したり、パネル・ディスカッションをしたり、その他、興味の

ある学習活動をする。

- 5 古典の学習に基いて、手紙やエッセイや劇やシナリオなどを書いてみる。
- 6 話すことを古典の学習に基いて行ってみる。たとえば、劇をしたり、朗読をしたり、クラスの前に出て話したり、物語をしたり、性格を述べたり、美しい文章を暗誦したり、フォーラムを聞いたり、その他、話すことのあるいろいろな学習活動を行ってみる。

(四) 予想される学習活動

- 17 博物館に見学に行つて、古典の物語に関係する時代に発達した道具や器械や美術品を研究する。
- 18 古典文学に関する学校放送があるときには、クラスのすべてに聞かせる。放送局から発行される解説書に基いて、準備のための学習をする。おとな向きのラジオの番組であっても、クラスの学習に役だつようによくふうすることは必要である。
- 19 学校の文芸雑誌に、読んだ古典についての批評を発表する。
- 27 学級で選んだ題目について、フォーラム・ディスカッションや円卓での討議を行う。
- 28 学級での研究に基いて、生徒がめいめいエッセイを書くようにさせる。すべて書くことの作業では、文章の正しさや文体や形式について特に気をつけさせる。時々、作文について、教えることも必要である。
- 31 友だちへ、手紙で古典を読んだことについての経験や感想を書いて送る。
- 32 物語に出る人物やその物語の著者にかりにならせて、それに対するインタビューを行う。
- 36 学習活動の終りころに、古典に取材した劇を生徒が脚色して、全校生徒の前で、あるいはほかの二、三の学級の人々の前で演じてみる。

かに音曲によって色づけうるかが知りたいのです。できるだけ簡素化された人間の姿、人間の対話、感情の表現というものが見たいのです。」

C 「日本の能が外国にまで影響を与えたということを、今度初めて知りました。そんなに大きな影響とは思いませんが、しかし、この『鷹の井戸』を見ますと、たしかにそれがわかります。しかし、この洪さと地味なよさは、日本人つまり東洋人には親しい世界ですが、このままはたして西洋人に受けられるものでしょうか。あちらで普及する可能性があるものなのでしょうか。」

A 「これは大きな問題だと思う。とうていほくたちには解決できる問題とは思わないが、しかし、日本文化というものを少しでも世界の人たちに理解してもらうためには、これはよく考えておかなくてはならない。日本が文化国家として世界的に地位を占めると云う念願を持つ以上、どうしても、日本人だけがひとりよがりしている時代ではないと思う。」

B 「といっても、日本独特のよさ、特色というものを発散させてしまつて、ただ諸外国の人々に理解してもらうために、歩調を合わせたり、こびたりする態度は毛頭とる必要はない。それはかえつて、日本文化を低くすることにになり、世界の文化寄与には役立たないと思う。」（以下略）

右は、表向きは能と歌謡や『鷹の井戸』との比較によって日本文化の特徴を考えさせるものだが、その背景には能が外国演劇にまで影響を及ぼす存在であることを示し、文化国家として再出発を図る日本を象徴する存在として能を位置づけようとする意図が透けてみえる。実際「二十六年度試案」は「国語学習指導の一般目標」を「国語の学習指導は、全体の教育の一環として、民主的な社会を作り、国際的理解と親善を増し、国民道徳を高めることに寄与するよう、常に心がけていなければならない。」と規定しており、教科書については

教科書の検定制度が実施されて、教科書が自由に作られるようになった。教科書の著者は教科書を作る場合、すでに一般に認められた理論に基いて作らねばならないが、その理論の多くは、本書に示されている。検定基準によれば、国語科の教科書は、他の教科におけると同様、この学習指導要領によることになっているが、それは教科書を、ここに示されたことに完全に一致させなければならないというわけではない。

と指摘し、強制力がないことを示しながらもその趣旨に沿うべきことを求めている。また佐野幹の指摘によれば、教科書検定が再開された初年度(昭和二十四年度)における教科書全体の合格率は三割ほどに過ぎず、高等学校国語教科書に至っては三十一件の申請に対し合格は僅か一件のみだったという。こうした事実からは教科書の編纂は指導要領を通じて文部省の意向が強く反映されたとみることができらるだろう。

かつて戦時下において能は、古典教材の一部として「皇国文化ノ創造」への貢献が求められた。終戦によって民主主義・平和主義を掲げる国家へと変貌したことで、日本文化を代表する存在として「世界の文化寄与」が求められたのである。田村景子は、こうした考えが能や演劇に携わる人々によって唱えられ、広く「民主主義」下の知識人や大衆に支持されたことを指摘しているが、国語教科書もまた「文化国家の古典」⁽¹²⁾形成の一役を担わされていたのである。なお、能と外国文学を同一単元に配する例はほかにもあり、『新編 国語(改訂版)文学 三』(大阪教育出版、昭和三二)が(俊寛)『年来稽古』とともに近松門左衛門『丹波与作待夜の小室節』とシェークスピアの『ヴェニスの商人』を載せたほか、『新国語 三訂版 文学 三』(三省堂、昭和三〇)は「芸術」という単元において阿部次郎「芸術のための芸術と人生のための芸術(『三太郎の日記』)」、津村秀夫「映画の魅力について」、オーギュスト・ロダン「ロダンの遺言」と(隅田川)『風姿花伝』を配し、『国語三 高等学校用』(教育図書、昭和三二)では、井島勉「美と芸術」、ベーターベン「音楽について」、岡崎義恵「日本的な美について」とともに『風姿花伝』を載せている。

一方「二十六年度試案」は

また、古典よりも現代文学のほうが生徒にとって興味もあるし、能力にも合っているから、国語の教育課程の中では、後者のほうがもっと重要な地位を占めようとしている。けれども古典の学習指導を捨ててはならない。多くのりつばな、価値ある作品が過去において書かれてきており、それを読解する力がつけば、その読書は楽しいものであるばかりでなく、われわれの祖先の生活や精神が理解される。古典の学習が不要なのではなくて、国語教育を古典に限ることが狭いというのである。

と指摘し、「中学校の国語教育は古典の教育から解放されなければならない」と述べていた「二十二年度試案」の表現を幾分柔らかに改めている。また末尾の付表「資料としての図書一覧表」にも「古典学習のための資料」として「「記紀歌謡・万葉集・古今和歌集・新古今和歌集・西行・実朝・曙覧・言道・良寛・芭蕉・蕪村・一茶・竹取物語・伊勢物語・源氏物語・土佐日記・更級日記・枕草子・徒然草・字治拾遺物語・今昔物語・大鏡・平家物語・奥の細道・三冊子・去来抄・西鶴諸国咄・日本永代蔵・世間胸算用・近松の浄瑠璃作品・玉勝間・雨月物語」などと並んで「謡曲・狂言などの適当な部分およびその注釈書。」が掲げられた。これらは実質的な教材例を示したものといえ、多くの教科書がこれを踏まえて能を教材に採用したのであろう。

その後単元学習は学力低下を招くという批判を受け、昭和三十一年の学習指導要領改訂では、学問の系統を重視し基礎学力の定着を図る「系統主義」への転換が図られた。

1 言語文化を広く深く理解できるように、読解力を豊かにし、特に鑑賞力や批判力を伸張させ、その読解の範囲も、現代文と並んで古文や漢文にまで拡充させる。(略)

3 ことばの理解や表現をよく意識して正確なものとするために、また現在および将来にも必要な国語の教養を

高めるために、各種の言語知識を身につけさせる。

〔昭和三十一年度学習指導要領改訂版〕

右改訂では、読解力の養成や言語知識の獲得といった点が重視された。これによって、教材例には「謡曲・狂言・近松の浄瑠璃などの戯曲類」に加え「花伝書・三冊子・去来抄・源氏物語玉の小櫛などにある評論類」が新たに加えられた。さらに昭和三十五年の改訂で国語は現代国語と古典に分割されたが、新設された「古典甲・古典乙Ⅰ」（いずれかを選択必修）はともに「謡曲、狂言、戯曲」を教材例に掲げている。この「二十二年度試案」から「三十五年度改訂」までは一貫して能(謡曲)・狂言が学習指導要領に教材例として示されており、その結果多くの教科書に採録されている(付表1・資料④参照)。

三、教材の精選と固定化の影響―附能楽論書の動向

戦後国語教科書のデータベース化を行った阿武泉は、古文の教材の変遷について以下のように指摘する。

4期(注Ⅱ昭和四十五年改訂以後)に、作品数、作品種類がともに大きく減少した。上位10作品も、ひとしなみに減少している。これは、指導要領の改訂による必修単位の減少が、作品を精選させたためである。なかでも、

「高等学校学習指導要領解説 国語編」において、教材ジャンルの例から外された「謡曲・狂言・戯曲など」は、以後急速に収録数を減らしていく。ジャンル別に見ると、最も多いのは随筆・評論で23・6%である。上記の「芸能」の減少以外に、ジャンルの割合の変動はあまり見られない。説話はやや増加傾向である。

(阿武泉¹⁴「戦後高等学校国語教科書教材の変遷 全教材リスト作成をとおして」)

昭和四十五年度の学習指導要領改訂では、必修教科であった「古典Ⅰ甲」の教材例から「謡曲、狂言、戯曲」の文言

が削られ、選択教科である「古典Ⅰ乙」に「戯曲」が残された。この時「謡曲・狂言」が省かれた理由について『学習指導要領解説 国語編』（文部省、昭四七、東京書籍）は以下のように指摘する。

改訂前の「古典甲」にあった「謡曲・狂言・戯曲など」を省いたのは、「古典Ⅰ甲」としての標準単位数について教材を精選するためであって、それらの教材としての価値を否定しているのではない。機会をとらえてこれらに触れることを必ずしも妨げるものではない。（中略）

「古典Ⅰ乙」の特色としては、「エ 戯曲類」が加わっていることである。戯曲類の中には、謡曲・狂言・浄瑠璃に重点が置かれることになるであろう。戯曲類を読む場合には、作品の性質上、視聴覚教材の活用などの配慮も必要となる。演劇に対する理解も必要なことであるが、国語の学習としては、書かれた台本の詞章をととしてことばの表現を読解、鑑賞することが中心になるべきことはいうまでもない。

また増淵恒吉・松隈義勇『改訂高等学校学習指導要領の展開 国語科編』（明治図書出版、昭和四六）は教材の「精選」の必要性について以下の如く説明する。

改訂前の「古典甲」において、何より問題とされたことは、その「目標」の(2)に、「古典としての古文や漢文について、概観的な理解を得させ、」とあることであり、標準二単位を、その線で合理化し正当化しようとしたことである。この「概観的な理解」とは、もともとは重要な所を大づかみにとらえるという意味であったが、教科書や現場であらわれたところでは、古文や漢文に広く（したがって浅く）触れさせるといふ解釈のもとに、各時代、各様式の作品が、「古典乙Ⅰ」とほとんど変わらぬ姿で網羅的に、あれこれ盛りだくさんにとりあげられ、時間が少ないことから、一作品をごく小部分抄出して配列するという結果になった。（中略）ここで重視されることは、「古典Ⅰ甲」は古典学習における基礎的な能力を養うことであり、それは基本的な作品を読むことで達成

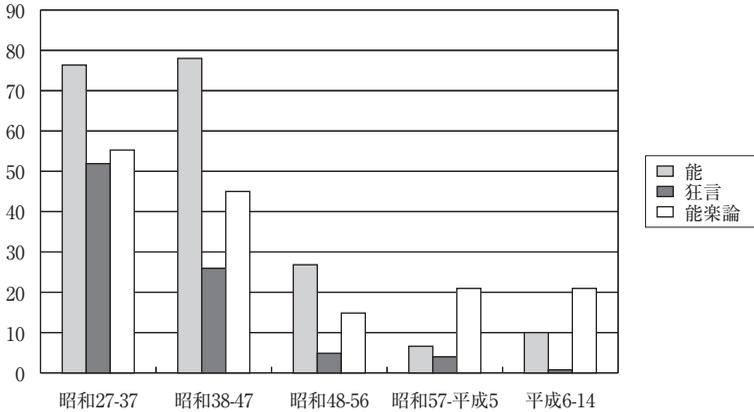
されるところである。わずか二単位の制約のもとに読む作品の数は、当然限られようが、それが「基本的な作品」とされているのは、採り上げる作品の種類と数を精選せよということと、ごく基本的なものにとどめてよいのである。無理に広く見わたす必要はないのである。したがって、学習指導においても、文法的解釈、注釈の取り扱いなどは最小限にとどめて、あくまで古典の生命に触れられるよう留意する必要がある。

教材の「精選」によって「古典Ⅰ甲」には「ア 和歌、俳句類 イ 物語類 ウ 随筆・評論類」が残された(イには説話、ウには日記・紀行文も含まれる)。ここで想起されるのが、先の「二十二年度試案」において掲げられた「(一) 詩情表現のむれ。(二) 思索・記録のむれ。(三) 物語のむれ。(四) 演劇一般のむれ。」の四種の教材の「むれ」である。これらは必ずしも古文の教材例を示すものではないが、「古典Ⅰ甲」が掲げるア、ウの教材例が(一)～(三)の教材の「むれ」と対応するのは明白であろう。すなわち精選によって「演劇一般のむれ」が脱落すること、その中に含まれていた能・狂言もまた教材から外されていくのである。

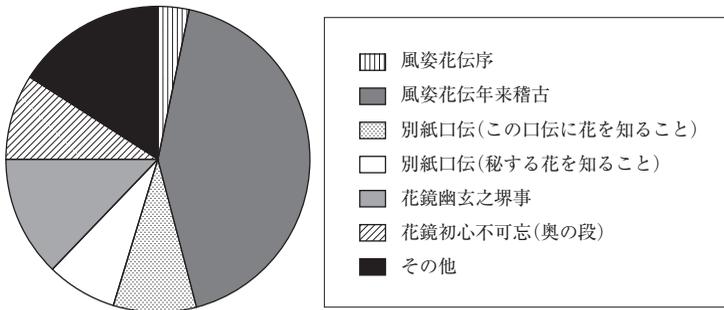
昭和五十年には高校進学率が九十%を超える一方、学校間における学力格差が生じ、いじめや不登校などが社会問題化した。これを受けて昭和五十三年度の改定では、学習内容の削減が提言され(ゆとりカリキュラム)さらなる「精選」と教材の「固定化」が進展した。その結果、国語教材から「外された」能や狂言は教科書から急速にその姿を消していくことになる。昭和四十八年からの十年間には「古典Ⅰ乙」を中心に十数社が能を教材としていたが、五十三年度改訂を反映した昭和五十八年以降になると、僅か二社(角川書店・東京書籍)に見られるのみとなった(狂言は角川のみ)。その後も一部の教科書が復活させる例(旺文社・大修館・桐原書店・三省堂など)はあるが、それらは例外的な事例に過ぎず、現在に至るまで能は国語の主要教材とはなっていない(資料④参照)。

一方、能楽論書は「随筆・評論類」に加えられたため「四十五年度改訂」以後も教材として残された。前述の如く、

資料④ 高等学校国語教科書における能楽関連作品数の推移



高等学校国語教科書における能楽論の種類



国語教科書に初めて能楽論書が登場したのは戦前の『国語』（岩波書店、昭和九）の最終巻末に西尾自身が執筆した「生涯稽古」であった。これは『風姿花伝』『花鏡』に基づく稽古論・人生論で、『風姿花伝』序の「非道を行すべからず」、『花鏡』万能箱一心事より「日々夜々、行住座臥にこの心を忘れずして、定心に縮ぐべし」、「年来稽古条々」より「十七八」、「花鏡」奥の段より「初心不可忘」「命には終りあり、能には果てあるべからず」などを引きつつ、能への稽古・研鑽が全生活・全生涯に及ぶべきことを説くものである。そもそも西尾は、自身の書『国語国文の教育』（古今書院、昭和四）序において

かくて、私が新たに現在の国語教育に導入しようとした所は、かくの如きわれわれの祖先によつて、あらゆる認識の方途を尽した上に真理体得の唯一の道として残された、「生涯稽古」の態度であり、更にこれを貫いてゐた「行」の精神である。国語国文学の研究にも種々なる方法が存立し得べきはいふまでもないが、それらの方法と方法として可能ならしめるものは、理論ではなく、全人的に把握せられた「力としての原理」でなくてはならぬ。かういふ「力としての原理」は、単なる知識欲認識欲等によつて成立するものではなく、生涯に互る集中と持続とを以て一事に徹しようとする行の精神によつてのみ確立せられる。そして、かういふ原理に立つた研究のみが、常にわれわれを新鮮にし、また人間教育の上にも生きて働く力たり得る。

と述べ、芸能・武道・仏教などにおける稽古や修行の精神を「行的態度」と呼称し、これを国語教育に導入すべきことを説いていた。「生涯稽古」がそうした西尾の教育思想を反映したものであることは、『国語』の教授資料である『国語 学習指導の研究』からも明らかである。

人間に許された可能力は、たゞ稽古によつてのみ真の実現が期せられるといふのが、嘗ては日本国民の信条であり、又実行であつた。然るにこの事實は近年の国民教育に於て又国民生活に於て殆ど忘れ去られてゐた。今、全生涯を通じ、生活の全面にわたつて稽古一片になりきることによつて、道の無限に参し、日本的なるものの最高度の顕現を示すに至つた能楽の天才世阿弥元清の遺した伝書によつて、その徹底した稽古精神を新に闡明し、それによつて国民性の真の伸暢・充実を図り、偉大な国民文化樹立の根底を培ふことは、中等教育に於ける国語教育の結論的学習たるにふさはしいであらう。(中略)構想は世阿弥の能楽論に於ける青年期の稽古の覚悟を中心に、生涯稽古の精神を明らかにしようとしてその概観上に定位したものであるから、その概観の部分に対しては補説によつて具体的理解に導かれなくてはならないことが多いに違ひない。しかしこの文の趣旨は、能楽論を知らせ

ることでもなく、能楽史の知識を与へることでもなく、世阿弥の白熱の稽古精神そのものに触れさせることに存するから、さういふ事実的知識は、さまで詳説を要しないであらうと思はれる。

戦後になると、昭和二十一年に使用された暫定教科書『国語四』とその後の国定教科書『高等国語』に「年来稽古条々」が採られたことは先に述べた。このうち『高等国語』の末尾に付された「学習の手引き」によれば「世阿弥の遺著は、すべて能楽研究の根本資料であるが、ことに本書は能楽の根本精神ともいべき物まねおよび幽玄の風姿すなわち「花」についての叙述が主となっていて、その基礎的、全般的芸術論として、最も尊重すべきものである。」とあり、「生涯稽古」が見せた精神論・人生論としての側面は後退し、芸術論としての側面に焦点が当てられている。また、「二十六年度試案」を受けた後継の検定教科書においても芸術関係の単元を設定し、そこに能楽論書を配する例が多い。一例として資料⑤に三省堂教科書における能楽論書の扱いを示したが、これによると土井忠生編『新国語改訂版』（昭和二七）は、「芸術の世界」という単元に、タウトやロダンの散文と共に『花伝書（風姿花伝）』を載せ、昭和三十年の三訂版では（隅田川）も同一単元に加えている。一方、昭和三十一年の学習指導要領改訂において花伝書などの評論類が教材例として示されたことを受けて、金田一京助・佐伯梅友編『高等古文三』（昭三二）では「評論文学」という単元を設定し、『源氏物語玉の小櫛』『去来抄』『難波土産』とともに『花鏡』を載せている。さらに「四十五年度改訂」によって能や狂言が教材から外されて以後は能楽論は能から分離し、評論の一作品として扱われることが多くなった。能・狂言が教科書から消える中で能楽論のみが残ることができたのは「生涯稽古」で西尾が述べたように能に関する知識がなくても人生論・教育論として読むことが可能であったことによるのだろう。このことは、教科書の採録箇所において「年来稽古条々」が全体の約半数を占めているという事実からも裏付けることができる。

（資料④）

75 国語教科書と能楽(続)

資料⑤ 三省堂国語教科書における能楽論書の扱い ※内容が前版を継承したものは省略した。			
	教科書	収録単元	学習の手引き・研究・課題
昭和27	土井忠生『新国語改訂版文学三』	芸術の世界：花伝書(序・年来稽古・この口伝に花を知る事)・永遠なるもの(ブルーノ・タウト)・ロダンの遺言	1. 各年代について言われていることの意味を比較して考えてみよう。2. 能の修業の方法をどう思うか。また、その精神はどこにあるか。3. 幽玄と花の内容について考えてみよう。4. 写実と芸術美の関係について考えてみよう。5. 能や謡曲について調べてみよう。6. 日本の伝統的な舞台芸術をどう思うか。7. 芸と修業と人生について考えてみよう。8. 緻密な口語訳を施してみよう。
昭和30	土井忠生『新国語三訂版文学三』	芸術の世界：芸術のための芸術と人生のための芸術(阿部次郎)・映画の魅力について(津村秀夫)・隅田川・花伝書(年来稽古・この口伝に花を知る事)・ロダンの遺言	1. 各年齢に従って、修練のしかたはどんなに変化していくか。2. 「幽玄」とか「花」とかいうことばは、どのような内容を持っているかを考えてみよう。3. 物まね(素朴な写実)と花(芸術美)とは、どのような関係にあるのだろうかを調べてみよう。4. 芸の修業は、人間形成にどんな意味を持つか。
昭和32	金田一京助・佐伯梅友『高等古文三』	評論文学：もののはあれ(源氏物語玉の小櫛)・幽玄(『花鏡』語りたる上手の能をば師によく習ひては似すべし…幽玄の堺に入ること・さび(去来抄)・虚実皮膜(難波土産)	師の心得、でしの心得をわかりやすく説明せよ。こゝでは幽玄をどう言っているか。それは国語辞典などにある幽玄の語の意味と、どう違うか。
昭和38	金田一京助・佐伯梅友・土井忠生・松枝茂夫『古文』	幽玄：隅田川・幽玄(『花鏡』幽玄の風体のこと)	ここでは幽玄をどういうものだと言っているか。
昭和58	広末保『古文』	風姿花伝(年来稽古)	1. 「七歳」「十二三より」「十七八より」の各時期において、能の上達の上で特に留意すべきことは何か、まとめてみよう。2. 「時分の花」「当座の花」とまことの花」とはどう違うのか、調べてみよう。3. この稽古論は能についてのものであるが、われわれに対してどのような示唆を与えるだろうか、話し合ってみよう。
平成7	藤井貞和・安藤信広『古典2』	論の世界：嫉妬の思いはその際なし(愚管抄)・上手は下手の手下下手は上手の手下(世阿弥)・柴戸・此木戸(向井去来)・地転ノ説(刻白爾天文図解)	1. 「よきほどの上手」と「下手」とが演技者としてさらに向上するためには、それぞれどのようにすべきであると述べられているか、整理してみよう。2. 本文中で使われている(1)～(3)の「されば」について、それぞれどのような内容を受けて使われているか調べてみよう。(1)されば、能と工夫とをきはめたる為手(2)されば、上手も下手も、互ひに人に尋ねべし。(3)されば、上手にだにも、上慢あらば、能は下がるべし。
平成15	柴田武・金谷治『高等学校古典』	芸能と表現：風姿花伝(年来稽古)・井筒	1. 各年齢ごとに重要なことは何か、またそれはなぜか、まとめてみよう。2. 「まことの花」という考え方について話し合ってみよう。
平成25	中冽正堯・岩崎昇一『高等学校古典B』	評論：古今和歌集仮名序・俊頼髓脳・無名草子・無名抄・毎月抄・風姿花伝(秘すれば花)・去来抄・難波土産・玉勝間・源氏物語玉の小櫛	1. なぜ能において「秘する」ことが大切なのか、まとめてみよう。2. ここで述べられている「花」とはどのようなことなのか、話し合ってみよう。
平成25	中冽正堯・岩崎昇一『精選古典B』	評論：古今和歌集仮名序・俊頼髓脳・無名草子・無名抄・毎月抄・正徹物語・風姿花伝(下手は上手の手下)・去来抄・源氏物語玉の小櫛	1. 筆者は「上手」「下手」に対して、それぞれどうあるべきだと述べているか、整理してみよう。2. 「稽古は強かれ。情識はなかれ。」とはどういうことか、説明してみよう。

おわりに

戦中期において「皇国文化ノ創造」に寄与すべきことが求められ、国定教科書にも掲載された能・狂言は、終戦によって新たな教育を模索する中で、一転して民主国家、平和国家における文化の代表たることを求められた。戦後しばらくは古典演劇・戯曲の代表格として教科書の主要教材であったが、教材の精選と固定化の余波を受けて減少し、現在では能楽論を除いて国語教科書に見ることはほとんどなくなった。⁽¹⁶⁾一方、平成二十年度の学習指導要領改訂によって、中学校「音楽」では「我が国の伝統的な歌唱や和楽器」が必修となり、高等学校「音楽Ⅱ」では、鑑賞教材として「三味線音楽(語り物)、能楽、琵琶楽などを扱うようにする」ことが記された。これによって多くの音楽の教科書に能に関する記述が見えるようになった。また国語教科書でも、資料篇やコラムにおいて「伝統芸能」を紹介する例は少なからずある。こうした点からは、「伝統や文化に関する教育の充実」が掲げられた現行学習指導要領下において、能や狂言が文化学習の教材として再評価されつつあるということができよう。

(1) <http://d1nd1.go.jp/> 以下の法令の引用も同データベースによる。

(2) 国語読本における五種選定教科書は以下の通り。

中学校…『国語 改訂版』(岩波編集部、岩波書店)『中学国文教科書』(吉田弥平・石井庄司、光風館書店)『純正国語読本 改訂版』(五十嵐力、早稲田図書出版社)『新制国語読本』(東条操、三省堂)『新編中等国語読本新制版』(金子元臣、明治書院)

高等女学校(五年制)…『女子新国文 改正新版』(芳賀矢一・橋本進吉、富山房)『女子新国語読本新制版』(沢潟久孝・

- 木枝増一、東京修文館『女子大日本読本 新訂版』(藤村作、大日本図書)『聖代女子国語読本』(吉澤義則、星野書店)
『純正女子国語読本改訂版』(五十嵐力、早稲田図書出版社)
- (3) 吉田裕久『中等国文』(1943)の研究―『中等国文五』・『国文六』を中心に(『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部文化教育開発関連領域・五八号、平成二二)、吉田裕久『暫定中等国語教科書(昭21)の研究―『中等国語』(1・2・3)『国語四』について』(愛媛大学教育学部紀要)第一部 教育学、三二二号、昭和六二)、内藤一志『古典(古文)教材史の基礎的研究―出典調査(1)―』(『北海道教育大学紀要』第一部C・四一巻一号、平成二二)
- (4) 『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部文化教育開発関連領域・第五七号、平成二〇、引用に際し明らかな誤植を改めた部分がある。
- (5) また昭和二十年発行とされる『中等国文五』『国文六』は、実際には発行・使用されなかったという。
- (6) なお、教科書編纂に携わった森下二郎の日記からは、教材としてもと(撰待)朝比奈が予定されていたことが分かる(吉田裕久『中等国文』(1943)の編纂過程「森下日記」の分析を通して)『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部 文化教育開発関連領域』五六号、平成一九)。
- (7) 増田史郎亮「墨ぬり教科書前後」(『長崎大学教育学部教育科学研究报告』三五号、昭和六三)に詳しい。
- (8) 狂言については詳しく考察する余裕がないが、「付表2」に見られるように特に小・中学校教科書において古典の入門教材として採られる例が多い。
- (9) 戦後高等学校国語教科書の変遷については、渡辺春美「戦後における古典教育課程の検討―高等学校学習指導要領の変遷を中心に―」(『高知大学教育学部研究報告』七十二号、平成二四)を参照した。
- (10) <https://www.nier.go.jp/guideline/> 以下学習指導要領の引用は全て同じ。
- (11) 『山月記』はなぜ国民教材となったのか(大修館書店、平成二五)三六頁。
- (12) 『三高由紀夫と能楽』近代能楽集』、または墮地獄者のパラダイス』(勉誠出版、平成二四)三四頁参照。

- (13) 八木雄一郎「1960(昭和35)年高等学校学習指導要領における「古典としての古文」の成立過程…古「典」教育における古「文」の位置」(『日本語と日本文学』五八号、平成二七)は、昭和二十年代から三十年代まで継続して高校国語教科書を発行していた実教出版、秀英出版、好学社、大修館書店の四社を挙げ、「いずれも昭和20年代においては、古典テクストの収載に関して様々な試みが見られる。たとえば秀英出版は単元「古典と現代」において、竹取物語、伊勢物語、土佐日記を「教養と世界古典(ヘッセ)」「敬亭山にむかひて(佐藤春夫)」とともに収録している。好学社は単元「物語と歌謡」において、竹取物語と梁塵秘抄が「白雪姫(デズニー)」と同じ単元に含まれている。大修館書店の単元「エッセイ」は、枕草子を「エッセイについて(福原麟太郎)」「雨の日(辰野隆)」「涼味数題(寺田寅彦)」といった近現代の文章とともに掲載している。」と指摘する。このほか外国文学を載せてはいないが、『われわれの国語(二)』(秀英出版、昭和二五)が佐藤春雄の戯曲『つばめ』、宇野信夫『霜夜狸』、〈羽衣〉によって「劇」という単元を構成し、『高等国語 三』(清水書院、昭和三三)は国木田独步『源叔父』、『蜻蛉日記』の「鳴滝籠り」、西尾実「中世的なもの」と(三井寺)によって「あかぬ別れ」というジャンル横断的な単元を設定している。
- (14) 『全国大学国語教育学会発表要旨集』一〇六号、平成一六
- (15) 諸井耕二「旧制中学校教科書 岩波編集部編『国語』全十巻をめぐって」(『字部工業高等専門学校研究報告』三六、平成二)
- (16) 能楽学会東京例会(平成二十八年二月二十九日)における岩城賢太郎の発表に詳しい。

79 国語教科書と能楽(続)

付表1 高等学校国語教科書における能楽関連教材
 (阿武泉『読んでおきたい名著案内 教科書掲載作品13000』(日外アソシエーツ、平成20)に拠り、
 私に調査した分を加えた。

発行年	教科書名	出版社	能楽	能楽論書	狂言
昭和25	われわれの国語(二)	秀英出版	羽衣		
27	高等総合国語二	教育図書			萩大名
27	高等文学一下	好学社	隅田川		瓜盗人
27	新国語(改訂版)文学三	三省堂		風姿花伝	
27	新選国語 三上	中等教育研究会	杜若		
28	高等標準国語文学編 二	教育図書	隅田川	風姿花伝	入間川
28	高等新国語 二上	光村図書		花鏡	
28	高等新国語 三 上	光村図書	羽衣		
28	高等国語(改訂版)二下	三省堂	隅田川		
28	現代国語文学 三下	実教出版	隅田川	風姿花伝	
28	言語と文学 三下	秀英出版	隅田川	風姿花伝	かみなり
28	新編国語文学 三	大阪教育図書	俊寛	風姿花伝	
28	高等国語(二上)	大修館		花鏡	
28	高等国語(二下)	大修館	隅田川		武悪
29	高等文学一(改訂)	好学社	隅田川		瓜盗人
30	新国語 三訂版 文学 三	三省堂	隅田川	風姿花伝	
30	現代国語文学 三	実教出版	隅田川	風姿花伝	
30	高等学校国語総合二上	昇龍堂出版	隅田川		狐塚
30	総合高等国語 三上	中等教育研究会	杜若		
30	国語 高等学校一年下	東京書籍	桜川		
30	国語高等学校総合 三	日本書院	忠度	花鏡	附子
31	国語二高等学校用	教育図書	隅田川		萩大名
31	総合新高等国語 二 全	教育図書研究会	羽衣		附子
31	高等学校国語一下(新版)	好学社	隅田川		瓜盗人
31	高等国語二下 三訂版	三省堂	隅田川		
31	総合高校国語三下	実教出版		風姿花伝	
31	総合高等国語三上	実教出版	熊野		かみなり
31	総合高等国語 改訂版 三上	実教出版	熊野		
31	高等国語総合編 三年下	中教出版	松風		
31	高等国語総合編一年下	中教出版			狐塚
32	中世文学選	右文書院	杜若	花鏡	未広がり
32	標準高等国語(甲)総合編 3	教育出版	松風	風姿花伝	伯母が酒
32	標準高等国語古文編 下	教育出版	杜若		栗焼
32	国語三高等学校用	教育図書		風姿花伝	
32	総合新高等国語 二 全	教育図書	羽衣		附子
32	標準鎌倉室町文学選	芸苑社	羽衣	風姿花伝	附子
32	高等国文選	芸苑社	羽衣		
32	古典文学中世編	好学社	熊野	風姿花伝	武悪
32	高等古文三	三省堂		花鏡	
32	総合高校国語改訂版三下	実教出版		風姿花伝	
32	国語 三	秀英出版	隅田川	風姿花伝	かみなり

32	古典入門 中世文学	秀英出版	隅田川		瓜盗人
32	高等国語卷三	初音書房	松風	花鏡	鎌腹
32	日本中世文学選	数研出版	隅田川	花鏡	附子
32	新選国文抄 卷三	清水書院	羽衣	風姿花伝	
32	高等国語 三	清水書院	三井寺		
32	新編 古文 三	大阪教育図書	熊野	申楽談儀	
32	新編 国語(改訂版)文学 三	大阪教育図書	俊寛	風姿花伝	
32	新編古文一	大阪教育図書			萩大名
32	新高等国語二上	大修館		花鏡	
32	新高等国語 二下	大修館	隅田川	風姿花伝	武悪
32	新修国文選近古・近世編	中央研究		風姿花伝	
32	新修国文選古典入門編	中央研究			附子
32	国語 三高等学校総合	中央図書		花鏡	
32	国語二高等学校総合	中央図書	隅田川		狐塚
32	新注古典文学抄	中央図書出版社	高砂	風姿花伝	酢薑
32	高等国文 第二	中央図書出版社	自然居士	風姿花伝	
32	国語総合編高等学校 二	中教出版	井筒		狐塚
32	総合高等国語三 改訂版	中等教育研究会	杜若		
32	日本文芸選中世編	日本書院	熊野	風姿花伝	瓜盗人
32	評論文学古典編	日本文教出版		風姿花伝	
32	新歴史文学選中世編	白揚社	隅田川	花鏡	瓜盗人
32	国語 二年下	文学社	隅田川	風姿花伝・花鏡	附子
32	日本文学読本 後編	文教書院	熊野		墨塗
32	新選古典文学下	明治書院	羽衣	風姿花伝	
32	高等国語総合3	明治書院	隅田川	風姿花伝	
32	中世日本文学選	明治書院	熊野		萩大名
32	国文古典編	友朋堂	羽衣	花鏡	附子
33	高等学校国語二 総合	角川書店	船弁慶	風姿花伝	釣狐
33	高等学校新国語総合三	三省堂	隅田川		
33	高等学校新編国語(総合)三	昇龍堂出版	隅田川	花鏡	狐塚
33	高等国文新選 卷三	星野書店	鉢木	風姿花伝	附子
33	高等学校新国語 二	續文堂	隅田川	風姿花伝	萩大名
33	国文古典編	日興出版	羽衣	花鏡	附子
33	国語高等学校用総合 三(改訂版)	日本書院	忠度	花鏡	附子
33	要注新校中世・近世文芸新抄	武蔵野書院	隅田川	風姿花伝	薩摩守
34	国語(改訂版)二 高等学校用総合	教育図書	隅田川	風姿花伝	萩大名
34	新編 高等学校国語一	好学社	隅田川		瓜盗人
34	高等国語四訂版二	三省堂	隅田川		武悪
34	国語三	筑摩書房		風姿花伝	
34	国語二	筑摩書房	隅田川		かみなり
34	新編 国語総合編二	東京書籍	羽衣		
35	高等学校古典三	角川書店		花鏡	
35	高等古文改訂版 三	三省堂		花鏡	
35	高等学校新国語総合 改訂版 二	三省堂	景清		清水
35	日本文学選 二	秀英出版		花鏡	

81 国語教科書と能楽(続)

35	国語新編 三	秀英出版	隅田川	風姿花伝	かみなり
35	日本文学選 三	秀英出版	松風		
35	日本文学選一	秀英出版			武悪
35	高等学校国語(総合)三	大原出版	隅田川	風姿花伝	柿山伏
35	新高等国語 新訂版2	大修館	隅田川	風姿花伝	靉猿
35	わたしたちの古典文学下巻	中央図書出版社	井筒	花鏡	
35	高等学校国語総合二(改訂版)	中央図書出版社	隅田川		
35	改訂高等国語総合3	明治書院	隅田川	風姿花伝	
35	徒然草平家物語中心国文新選	明治書院			附子
37	国語三 高等学校用総合 三訂版	日本書院	忠度	花鏡	附子
38	古典文学上	右文書院			成上り
38	日本古典文学	角川書店	隅田川	風姿花伝	墨塗
38	高等学校古典	角川書店	隅田川		
38	高等学校古典総合二	角川書店	隅田川		
38	国語古典 甲	教育図書研究会	羽衣		附子
38	高等学校古典(古文編)乙1	好学社	隅田川		瓜盗人
38	標準高等古文	講談社	俊寛	風姿花伝	しびり
38	古文	三省堂	隅田川	花鏡	
38	古典	三省堂	景清		
38	古典乙1 古文	実教出版	安宅	風姿花伝	
38	古典 甲	実教出版	羽衣		
38	国語古典編(甲)	秀英出版	隅田川		
38	国語古文編1・2年用	秀英出版	隅田川		かみなり
38	高等学校新選古文一	尚学図書	羽衣	花鏡	附子
38	高等学校新選古典	尚学図書	羽衣		
38	古典(乙1総合)下	清水書院	羽衣	風姿花伝	
38	古典(甲)	清水書院	羽衣		
38	高等学校古文(古典乙1)	大原出版	忠度	風姿花伝	
38	高等学校古典(古典甲)	大原出版	羽衣		柑子
38	高等古文	大修館	隅田川	風姿花伝	靉猿
38	高等学校古典(甲)	大日本図書	隅田川		
38	高等学校古文(乙1)	大日本図書	隅田川		柿山伏
38	古典(甲)	筑摩書房	隅田川		
38	古典1(古文)	筑摩書房			かみなり
38	高等古典下巻	中央図書出版社	井筒	花鏡	
38	古典 日本文学 巻二	中央図書出版社	井筒	花鏡	
38	古文一(古典乙1)一・二年用	東京書籍	隅田川	花鏡	
38	国語古典乙1 古文	日本書院	隅田川	花鏡	
38	国語古典甲	日本書院			菘大名
38	日本文芸新抄 古典乙1 古文	武蔵野書院	隅田川		薩摩守
38	日本文芸新抄 古典甲	武蔵野書院	隅田川		
38	古典文学読本	文教書院	羽衣		
39	新修古典 下	初音書房	隅田川		
40	古典文学	右文書院	夕顔	風姿花伝	
40	高等学校古典乙2 古文	角川書店	隅田川	風姿花伝	

40	高等学校古典総合三	角川書店		風姿花伝	
40	国語 古文編(乙2)	秀英出版		花鏡	
40	新修古典 乙2古文	初音書房		花鏡	柑子
40	高等学校古文(古典乙2)	大原出版	百万		
40	高等古文	大修館		花鏡	
40	古典乙2(古文)	筑摩書房	隅田川	風姿花伝	
40	古典日本文学乙2	中央図書出版社		風姿花伝	
40	古文二(古典乙2)三年用	東京書籍		花鏡	
40	日本文芸新抄古典乙2古文	武蔵野書院		風姿花伝	
40	古文古典乙2	明治書院	安宅	風姿花伝	
40	漢文古典乙2	明治書院			草雉
42	改訂古典文学上	右文書院			成上り
42	日本古典文学改訂版	角川書店	隅田川	風姿花伝	墨塗
42	高等学校古典改訂版	角川書店	隅田川		
42	高等学校古典総合二改訂版	角川書店	隅田川		
42	高等学校古典甲	好学社	隅田川		
42	新編 高等学校古典乙1古文編	好学社	隅田川		瓜盗人
42	新編 古典乙1古文下	三省堂	隅田川	花鏡	
42	新編 古典甲	三省堂	景清		
42	古典乙1古文改訂版	実教出版	安宅		瓜盗人
42	古典 甲 改訂版	実教出版	羽衣		
42	古典(甲)改訂版	秀英出版	隅田川		
42	古文(乙1)改訂版	秀英出版	隅田川		かみなり
42	高等学校古文 一上	尚学図書	隅田川	花鏡	
42	高等学校新選古典	尚学図書	羽衣		
42	新版古典(甲)	大日本図書	隅田川		
42	新版古文(乙1)	大日本図書	隅田川		
42	高等古典 下巻 改訂版	中央図書出版社	井筒	風姿花伝	
42	新古典 日本文学 下	中央図書出版社	井筒		
42	新編古文一(古典乙1)	東京書籍	隅田川	花鏡	
42	古典(古典甲)	明治書院	羽衣		
43	高等学校古典乙2古文 改訂版	角川書店	隅田川	風姿花伝	
43	高等学校古典総合三改訂版	角川書店		風姿花伝	
43	古典乙II古文改訂版	実教出版		風姿花伝	
43	古文(乙2)改訂版	秀英出版		花鏡	
43	新編古文二(古典乙2)	東京書籍		花鏡	
43	改訂古文古典乙2	明治書院	安宅	風姿花伝	
43	改訂漢文古典乙2	明治書院			草雉
45	高等学校古典三訂版	角川書店	隅田川		
45	高等学校古典総合二 三訂版	角川書店	隅田川		
45	改訂版国語古典 甲	教育図書研究会	羽衣		附子
45	高等学校古典甲 改訂版	好学社	隅田川		
45	(古典乙1)新編古文下 改訂版	三省堂	隅田川	花鏡	
45	〈古典甲〉新編 古典 改訂版	三省堂	景清		
45	古典乙1古文三訂版	実教出版	安宅		瓜盗人

83 国語教科書と能楽(続)

45	古典 甲 三訂版	実教出版	羽衣		
45	高等学校新選古文一全	尚学図書	羽衣	花鏡	附子
45	高等学校新選古文一上	尚学図書	隅田川	花鏡	
45	高等学校新選古典	尚学図書	羽衣		
45	新訂版古文(乙2)	大日本図書		風姿花伝	
45	新訂版古典甲	大日本図書	隅田川		
45	新訂版古文(乙1)	大日本図書	隅田川		
45	古典(甲)改訂版	筑摩書房	隅田川		
45	古典1(古文)改訂版	筑摩書房			かみなり
45	新古典 日本文学 改訂版 下	中央図書出版社	井筒		
45	新訂古文一(古典乙1)	東京書籍	隅田川	花鏡	
45	国語古典乙1古文(改訂版)	日本書院	隅田川	花鏡	
45	国語古典甲(改訂版)	日本書院			萩大名
45	古典(古典甲)改訂版	明治書院	羽衣		
45	漢文古典乙1 三訂版	明治書院	三井寺		
46	高等学校古典乙2古文 三訂版	角川書店	隅田川	風姿花伝	
46	高等学校古典総合三 三訂版	角川書店		風姿花伝	
46	古典2(古文)改訂版	筑摩書房	隅田川	風姿花伝	
46	新訂古文二(古典乙2)	東京書籍		花鏡	
46	古文古典乙2 三訂版	明治書院	松風	風姿花伝	
48	高等学校古文下	旺文社	隅田川	風姿花伝・花鏡	
48	高等学校古文二	角川書店	紅葉狩	風姿花伝	
48	高等学校古典総合二	角川書店	隅田川		
48	高等学校古典甲 改訂版	学校図書	隅田川		
48	新編 高等学校古典乙1古文編	学校図書	隅田川		瓜盗人
48	古文古典1乙	教育出版	忠度	風姿花伝	
48	古典 古典1甲	教育出版			瓜盗人
48	古典1乙(古文)	光村図書	井筒		
48	新版古文(下)	三省堂	隅田川		
48	古典1乙 古文	実教出版	羽衣		
48	高等学校新選古文全	尚学図書	隅田川		
48	高等学校古文下	大原出版	羽衣		
48	古典1乙(古文)	筑摩書房	隅田川		
48	日本古典文学 下	中央図書出版社	井筒		
48	古文(古典1乙)下	東京書籍	藤戸	花鏡	
48	古文 古典1乙	明治書院	羽衣	風姿花伝	
48	古典 古典1甲	明治書院	羽衣		
49	古文新選上	右文書院			成上り
50	評論	日栄社		風姿花伝	
51	高等学校古文下(改訂版)	旺文社	隅田川	風姿花伝	
51	高等学校古文二改訂版	角川書店	紅葉狩	風姿花伝	
51	高等学校古典総合二 改訂版	角川書店	隅田川		
51	高等学校古典1乙古文下	学校図書	隅田川		
51	改訂古文古典1乙	教育出版	忠度	風姿花伝	
51	新版古文(下) 改訂版	三省堂	隅田川		

51	高等学校古文下(古典1乙)	大原出版	羽衣		
51	古典1乙(古文)改訂版	筑摩書房	隅田川		
51	古典1甲改訂版	筑摩書房			鬼瓦
51	高等学校国語総合二(改訂版)	中央図書出版社			千鳥
51	新訂古文(古典1乙)下	東京書籍	藤戸	花鏡	
51	古文古典1乙 新収版	明治書院	忠度	風姿花伝	
51	古典 古典1甲 新修版	明治書院	羽衣		
52	源氏物語・大鏡・評論・古典2	右文書院		花鏡	
55	源氏物語・大鏡・評論 改訂版	右文書院		花鏡	
56	源氏物語・古典評論	日栄社		風姿花伝	
58	源氏物語・大鏡・評論	右文書院		花鏡	
58	高等学校総合国語2	角川書店	井筒		
58	高等学校古典総合	角川書店	高砂・羽衣		
58	高等学校精選国語2	角川書店			葺
58	高等学校国語2	学校図書		風姿花伝	
58	古文	三省堂		風姿花伝	
58	高等学校古文	大修館		風姿花伝	
58	国語2	東京書籍	井筒		
58	源氏物語・古典評論	日栄社		風姿花伝	
58	徒然草・枕草紙・原子物語・大鏡・古典評論抄	日栄社		風姿花伝	
58	評論	日栄社		風姿花伝	
59	徒然草・評論	清水書院		風姿花伝	
59	高等学校用総合古典	筑摩書房		風姿花伝	
61	高等学校総合国語2改訂版	角川書店	井筒		
61	高等学校精選国語2改訂版	角川書店			葺
61	高等学校国語2改訂版	学校図書		風姿花伝	
61	高等学校古文 改訂版	大修館		風姿花伝	
61	高等学校新選古典	第一学習社		風姿花伝	
61	改訂国語2	東京書籍	井筒		
62	高等学校古文(改訂版)	旺文社		風姿花伝	
62	新選古文	日栄社		風姿花伝	
62	新編古文	明治書院		風姿花伝	
平成1	高等学校総合国語2三訂版	角川書店	井筒		
1	高等学校精選国語2三訂版	角川書店			葺
1	高等学校国語2新版	学校図書		風姿花伝	
1	高等学校古文 三訂版	大修館		風姿花伝	
1	高等学校新編古典(古文)(二訂版)	第一学習社		風姿花伝	
2	高等学校古文(再訂版)	旺文社		風姿花伝	
4	高等学校総合国語2四訂版	角川書店	井筒		
4	高等学校精選国語2四訂版	角川書店			葺
4	高等学校国語2改訂版	学校図書		風姿花伝	
4	高等学校新編古典(古文)(三訂版)	第一学習社		風姿花伝	
7	高等学校国語2	旺文社		花鏡	

85 国語教科書と能楽(続)

7	新国語 2	旺文社	隅田川	風姿花伝	
7	高等学校国語 2	学校図書		風姿花伝	
7	高等学校国語 2	大修館		風姿花伝	
7	高等学校古典 1 古文	大修館		風姿花伝	
7	高等学校古典 1 総合	大修館		風姿花伝	
8	源氏物語・大鏡・評論	右文書院		花鏡	
8	古典 2	右文書院		花鏡	
8	高等学校古典 2	旺文社	忠度	風姿花伝	
8	高等学校古典 2	角川書店		風姿花伝	
8	古典 2	三省堂		風姿花伝	
8	古典 1	三省堂			大黒連歌
8	新選古典二	尚学図書		花鏡	
8	高等学校古典 2 古文	大修館	隅田川		
8	高等学校古典 2 総合	大修館	隅田川		
8	高等学校古典 2 古文編	第一学習社		風姿花伝	
8	古典 2 (筑摩)	筑摩書房		風姿花伝	
8	古典 2	東京書籍	井筒		
8	古典評論	日栄社		花鏡・風姿花伝	
8	精選古典 2 古文編	明治書院		風姿花伝	
11	高等学校古典 1 (古文編)	桐原書店		風姿花伝	
11	高等学校国語 2 改訂版	大修館		風姿花伝	
12	高等学校古典 2 (改訂版)	旺文社	忠度	風姿花伝	
12	高等学校古典 2 (古文編)	桐原書店	道成寺		
12	高等学校古典 2	大修館	隅田川	風姿花伝	
12	精選古典 2 古文編	大修館	隅田川	風姿花伝	
12	古典 2 改訂版	筑摩書房		風姿花伝	
12	古典 2	東京書籍	井筒		
12	高等学校古典 2	日栄社		風姿花伝	
12	物語文学・評論	日栄社		風姿花伝	
12	精選古典 2 古文編	明治書院		風姿花伝	
12	総合古典 2	明治書院		風姿花伝	
15	高等学校古典	三省堂	井筒	風姿花伝	
15	精選古典	東京書籍		風姿花伝	
15	古典	東京書籍		風姿花伝	
15	古典 2	大修館書店	隅田川	風姿花伝	
15	精選古典	大修館書店		風姿花伝	
15	古典	筑摩書房		風姿花伝	
15	精選古典古文	教育出版		風姿花伝	
16	源氏物語・大鏡・評論	右文書院		花鏡	
16	精選古典講読(古文)	明治書院		風姿花伝・花鏡	
17	高等学校古典	桐原書店	道成寺	風姿花伝	
17	古典評論	日栄社		風姿花伝・花鏡	
19	新精選古典	明治書院		風姿花伝	
19	高等学校古典 [改訂版]	三省堂	井筒	風姿花伝	
19	精選古典	東京書籍		風姿花伝	

19	古典古文編	東京書籍		風姿花伝	
19	精選古典改訂版	大修館書店		風姿花伝	
19	古典古文編	数研出版		風姿花伝	
19	精選古典	筑摩書房		風姿花伝	
19	新編古典	筑摩書房		風姿花伝	
20	高等学校古典 改訂版	桐原書店		風姿花伝	
20	新編古典改訂版	大修館書店			
20	古典2 改訂版	大修館書店	隅田川	風姿花伝	
24	精選国語総合	大修館書店			
24	新編国語総合	大修館書店			
25	源氏物語・大鏡・評論	右文書院		花鏡	
25	高等学校古典B	第一学習社		風姿花伝	
25	古典B	筑摩書房		風姿花伝	
25	精選古典B 古文編	明治書院		風姿花伝	
25	古典A	東京書籍		風姿花伝	
25	精選古典B	東京書籍		風姿花伝	
25	高等学校古典B	三省堂		風姿花伝	
25	精選古典B	三省堂		風姿花伝	
25	探究古典B	桐原書店		風姿花伝	
25	古典B	桐原書店		風姿花伝	
25	古典B	大修館書店	隅田川	風姿花伝	
25	精選古典B	大修館書店		風姿花伝	
25	古典B	数研出版		風姿花伝	
26	物語・史伝選	筑摩書房		風姿花伝	

87 国語教科書と能楽(続)

発行年	教科書名	小中別	著者	作品
昭和24	国語中学校第一学年用(二)(教育図書)	中		ぶす(狂言)
25	ごむまり(光村図書)	小	栗原一登	はごろも
25	国語の教室二(中等学校教科書)	中		柿山伏(狂言)
25	私たちの国語二上(秀英出版)	中		はぎ大名(狂言)
25	中学国語二下(大修館書店)	中		狐塚(狂言)
25	中等国語三下(三省堂)	中	小山弘志	雷
26	国語生活上(日本書籍)	中		萩大名(狂言)
26	私たちの国語二上(秀英出版)	中		はぎ大名(狂言)
26	新国語(三)(二葉)	中		かみなり(狂言)
26	新生国語読本上(富山房)	中		入間川(狂言)
27	ごむまり二年中(光村図書)	小	栗原一登	はごろも
27	国語生活文学編 二年上巻(日本書籍)	中		萩大名(狂言)
27	国語中学一年文学編全(教育図書)	中		ぶす(狂言)
27	私たちの国語二下(秀英出版)	中		はぎ大名(狂言)
27	新国語文学 二年上(二葉)	中		かみなり(狂言)
27	新制中等国語文学編 3年生用(北陸教育書籍)	中	ストラミジヨリ, J	能と歌舞伎
27	新生中等国語文学編 3年生用(北陸教育書籍)	中		柿山伏(狂言)
27	新中学国語二下(大修館書店)	中		未広がり(狂言)
27	中等国語(改訂版)三下(三省堂)	中		雷(狂言)
27	中等新国語文学3下(光村図書)	中		膏葉煉(狂言)
28	国語の本六年上(二葉)	小	野上弥生子	ぶす
28	新しい中学国語文学 三(開隆堂出版)	中	戸川秋骨	隅田川
28	新制中等国語文学編 第三学年用(中央書籍)	中	ストラミジヨリ, J	能と歌舞伎
28	新制中等国語文学編第三学年用(中央書籍)	中		柿山伏(狂言)
28	中学国語三の下(教育出版)	中		清水(狂言)
28	中学国語三上(学校図書)	中		鬼清水(狂言)
28	中学生の国語一下(修文館)	中	三宅藤九郎	首引き
28	中学標準国語二下(教育図書)	中	丸山林平	羽衣の話
28	中学標準国語二上(教育図書)	中		蚊ずまふ(狂言)
29	新しい中学国語文学 三(開隆堂出版)	中	戸川秋骨	隅田川
29	総合国語中学校用二下(秀英出版)	中		ぶす(狂言)
29	中等国語三上(池田教科書出版)	中		ぶす(狂言)
29	模範中学国語三上(実教出版)	中		はぎ大名(狂言)
30	改訂 新中学国語二上(大修館書店)	中		未広がり(狂言)
30	新版しんこくご二年下(光村図書)	小	栗原一登	はごろも
30	中学の国語二下(愛育社)	中	戸川秋骨	熊野
30	中学の国語二下(愛育社)	中		萩大名(狂言)
30	中学国語総合一年下(二葉)	中	戸塚文子	羽衣の松
30	中学国語総合三年下(二葉)	中		ぶす(狂言)
30	中学国語二下(学校図書)	中		鬼清水(狂言)
30	中等国語(改訂版)三下(三省堂)	中		雷(狂言)
30	中等国語(三訂版)三下(三省堂)	中	小山弘志	狂言の演じ方

30	中等新国語総合編二下(光村図書)	中		かうやくねり(狂言)
30	中等新国語文学編三下(光村図書)	中		膏葉煉(狂言)
31	改訂版 総合中学国語三の下(教育出版)	中		清水(狂言)
31	改訂版 中学標準国語二上(教育図書)	中		蚊ずまふ(狂言)
31	改訂版中学標準国語二下(教育図書)	中	丸山林平	羽衣の話
31	国語総合編 中学校二年下(中等学校教科書)	中		柿山伏(狂言)
31	私たちの国語三下(秀英出版)	中	田中允	「羽衣」の鑑賞
31	私たちの国語三下(秀英出版)	中		末広がり(狂言)
31	新編国語の本6年1(二葉)	小	野上弥生子	ぶす
31	新編新しい国語六年(2)(東京書籍)	小	三宅藤九郎	盆山(狂言)
31	中等新国語総合編(改訂版)二下(光村図書)	中		かうやくねり(狂言)
31	模範中学国語三上改訂版(実教出版)	中		はぎ大名(狂言)
32	国語一下(筑摩書房)	中	小山弘志	狐塚
32	新編新しい国語 中学三年上(東京書籍)	中		うりぬすびと(狂言)
32	中学国語二下(学校図書)	中		鬼清水(狂言)
32	中学新国語二(三省堂)	中		ぶす(狂言)
32	中等国語(四訂版)三下(三省堂)	中		かき山伏(狂言)
32	中等国語(四訂版)三下(三省堂)	中	小山弘志	狂言の演じ方
33	国語三総合中学校用(中央図書)	中		ぶす(狂言)
33	国語二中学校用(教育図書)	中		六人僧(狂言)
33	新中学国語総合 新訂版二上(大修館書店)	中		末広がり(狂言)
33	総合中学国語三訂版3下(教育出版)	中		清水(狂言)
34	国語総合二下(開隆堂出版)	中		かみなり(狂言)
34	中学校新国語改訂版二(三省堂)	中		ぶす(狂言)
34	中等新国語(新版)二(光村図書)	中		清水(狂言)
35	新編新しい国語中学三年上 新訂版(東京書籍)	中		うりぬすびと(狂言)
35	中学国語二(学校図書)	中		鬼清水(狂言)
35	中等国語 五訂版二(三省堂)	中		かき山伏(狂言)
35	中等国語 五訂版二(三省堂)	中	小山弘志	狂言について
36	小学校国語六年上(学校図書)	小		ぶす(狂言)
36	新しい国語6年2(東京書籍)	小	三宅藤九郎	ぼんさん
37	国語中学校用二(筑摩書房)	中		狐塚(狂言)
37	国語二(開隆堂出版)	中		蝸牛(狂言)
37	私たちの国語三(大日本図書)	中		きつね塚(狂言)
37	新しい国語中学二年(東京書籍)	中		しびり(狂言)
37	新国語三(三省堂)	中		ぶす(狂言)
37	新中学国語三(教育図書研)	中		狐塚(狂言)
37	中学校国語二年上(学校図書)	中	小山弘志	隅田川
37	中等国語三(三省堂)	中	河竹繁俊	羽衣
37	中等国語三(三省堂)	中	世阿弥	羽衣
37	中等国語三(三省堂)	中	小山弘志	きつねづか
37	中等国語三(三省堂)	中	小山弘志	能と狂言
37	中等新国語一(光村図書)	中	三宅藤九郎	はぎ大名
37	標準中学国語3年(教育出版)	中		武悪(狂言)
40	小学校国語六年上(学校図書)	小		ぶす(狂言)

89 国語教科書と能楽(続)

41	現代の国語中学2(三省堂)	中	小山弘志	ぶす
41	国語二中学校用(筑摩書房)	中		狐塚(狂言)
41	新編 新しい国語中学二年(東京書籍)	中		しびり(狂言)
41	中学国語三(学校図書)	中		鬼清水(狂言)
41	中等国語新訂版三(三省堂)	中		萩大名(狂言)
42	中等新国語一(光村図書)	中	三宅藤九郎	はぎ大名
43	小学校国語六年下(学校図書)	小		ぶす(狂言)
44	新訂中学国語2(教育出版)	中		しびり(狂言)
44	新版 国語2 中学校用(筑摩書房)	中		狐塚(狂言)
44	中学校現代の国語新版3(三省堂)	中	小山弘志	武悪
44	中学国語2(日本書籍)	中		ぶす(狂言)
44	中学国語三(学校図書)	中		鬼清水(狂言)
46	新編新しい国語6下(東京書籍)	小	三宅藤九郎	盆山(狂言)
47	新しい国語二(東京書籍)	中		清水(狂言)
47	新版 標準中学国語二(教育出版)	中		しびり(狂言)
47	中学校現代の国語最新版2(三省堂)	中	小山弘志	武悪
47	中学国語二(学校図書)	中		鬼清水(狂言)
47	中学国語二(日本書籍)	中		柿山伏(狂言)
49	新訂新しい国語6下(東京書籍)	小	三宅藤九郎	盆山(狂言)
50	改訂 標準中学国語二(教育出版)	中		しびり(狂言)
50	新訂 新しい国語二(東京書籍)	中		清水(狂言)
50	中学校現代の国語最新改訂版2(三省堂)	中	小山弘志	武悪
50	中学国語2(日本書籍)	中		柿山伏(狂言)
50	中学国語二(学校図書)	中		鬼清水(狂言)
52	小学校国語六年上(学校図書)	小		ぶす(狂言)
52	新版国語6年下(教育出版)	小	北村寿夫	ぶす
52	新編新しい国語6下(東京書籍)	小	三宅藤九郎	盆山(狂言)
53	新版 中学国語2(教育出版)	中		しびり(狂言)
53	中学校現代の国語2新版(三省堂)	中	小山弘志	武悪
53	中学校国語一(学校図書)	中		雷(狂言)
55	国語六下希望(光村図書)	小	三宅藤九郎	附子
55	小学国語6年下(教育出版)	小	北村寿夫	ぶす
56	中学校国語一(学校図書)	中		雷(狂言)
58	改訂小学国語6年下(教育出版)	小	北村寿夫	ぶす
58	国語六下希望(光村図書)	小	三宅藤九郎	附子
59	中学校国語一(学校図書)	中		雷(狂言)
61	国語六下希望(光村図書)	小	三宅藤九郎	附子
61	小学校国語六年上(学校図書)	小	山本東次郎	ぶす(狂言)
61	新訂小学国語6下(教育出版)	小	木下順二	附子
62	中学校国語一(学校図書)	中		雷(狂言)
平成1	小学校国語六年上(学校図書)	小	山本東次郎	ぶす(狂言)
1	小学国語6下(大阪書籍)	小	茂山千五郎	附子
1	新訂小学国語6下(教育出版)	小	木下順二	附子
2	中学校国語1(学校図書)	中		雷(狂言)
3	小学国語6下(大阪書籍)	小	茂山千五郎	附子

3	新しい国語五上(東京書籍)	小	井関義久	清水
3	新訂小学国語 6下(教育出版)	小	木下順二	附子
4	現代の国語 2(三省堂)	中		柿山伏(狂言)
4	中学校国語 1(学校図書)	中		雷(狂言)
8	国語六上創造(光村図書)	小	和泉元秀	附子
8	小学国語 6下(大阪書籍)	小	茂山千作	附子
8	新編新しい国語五上(東京書籍)	小	井関義久	清水
9	現代の国語 2(三省堂)	中		柿山伏(狂言)
12	国語六上創造(光村図書)	小	和泉元秀	附子
12	小学国語 6下(大阪書籍)	小	茂山千作	附子
14	小学国語 6下(大阪書籍)	小	茂山千作	附子
17	国語六上創造(光村図書)	小	山本東次郎	狂言 柿山伏／柿山伏について
17	新編新しい国語四下(東京書籍)	小	井関義久	清水
18	現代の国語 2(三省堂)	中		柿山伏(狂言)
18	伝え合う言葉 中学国語 1(教育出版)	中	野村萬斎	狂言と漢字